

都市再生プロジェクト推進調査費調査概要様式

1 応募団体名	富山県新湊市 <担当者>企画総務部企画情報課主幹 渋谷 斉 <連絡先>TEL 0766-82-8206 FAX 0766-82-8207 Email kikaku@city.shinminato.lg.jp
2 調査名	臨海部における未利用地の活用と中心市街地との連携
3 推薦団体名	
4 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	<行政区域名> 新湊市 <地区名> 放生津・新湊地区、堀岡地区
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	<行政区域の特徴> 人口 37,025 人 (H16.10 住民基本台帳人口) <地区の特徴> 放生津・新湊地区：中心市街地と臨海部の埋立地（海王町） 堀岡地区：密集市街地と臨海部の埋立地（海竜町）
5 提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	<p>本市臨海部に位置する富山新港東西埋立地（海王町・海竜町）は、環日本海時代の交流拠点、そのゲートウェイとして、さまざまなロマンを秘めた広大にして貴重な港湾空間である。さらに、平成 14 年秋には、この両埋立地を結ぶ貴重な観光資源となる日本海側最大の複合斜張橋の臨港道路富山新港東西線（仮称）新湊大橋が、概ね 10 年後の完成を目途に本格着工されたところである。</p> <p>本市では、この貴重な港湾空間が国有地又は県有地であることを踏まえ、両地区における今後のまちづくりの指針、土地の利用活用について、それぞれ既存の施設を有効活用するとともに、残された未利用地の有効利用について検討する。また、海王町にある海王丸パークと中心市街地とりわけ内川周辺との連携協力のあり方、海王丸パークへの路面電車（既存鉄軌道）の可能性、両地区を訪れる人と人との相互誘導策なども検討し、港湾都市・港町としての活性化を考える。</p>

<p>(2) 本調査費による活動内容の概要</p>	<p>①本調査費により行われた活動内容の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 (H16年9月下旬) 一般市民と中学生に実施、回答数：一般 157 件、 中学生 320 件 ・ワークショップ (H16年10月・11月) 2回開催、地元住民代表者 19 人参加 ・検討委員会 (H16年10月～H17年2月) 3回開催、学識経験者や住民代表など 8 人参加 ・内川遊覧及び市内散策実証実験 (H16年10月) 検討委員会の委員及びオブザーバーなど 15 名が参加 船による内川の遊覧を実施 市街地内の歴史・文化資源を散策 ・国際シンポジウム (H16年10月) イタリアのティボリ市長と助役を迎え、市内視察と意見交換会、 国際シンポジウムを開催 <p>②本調査費以外若しくは経費をかけずに行った活動内容の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内研究会 (H16年2月～H17年2月) 5回開催、庁内関係各課職員 13 名が参加 ・小学生ワークショップ (H17年2月) 2回開催、小学5年生1クラスが参加 ・土地利用活用方策検討委員会 (H16年2月・7月) 2回開催、学識経験者や住民代表など 9 人が参加
---------------------------	---

<p>6 本調査と関連する活動実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内川遊覧船の就航について、民間で平成 17 年度の運行開始を目指した計画が進行中。 ・平成 17 年度から市民や関係機関参加のもと（仮称）新湊みなとまちづくり推進委員会を立ち上げる予定 ・まちづくり交付金により内川周辺と情報発信盤の整備を予定 ・新エネルギーに関する調査を来年度から実施予定 ・新湊大橋（仮称）のインフォメーションハウスを国土交通省が整備中 ・平成 17 年度から観光モデルコースの設定を実施予定
-----------------------	--

<p>7 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>	<p>本調査の実施により、臨海部における未利用地の活用方策及び中心市街地との連携方策を可能な限り具体的に示すことが出来たものと考えている。</p> <p>策定過程では、学識経験者などで構成する委員会を設置するとともに、アンケート調査、ワークショップなど市民参画を積極的に進め、更に、世界遺産が2つあるイタリア、ティボリ市の市長にも外からの視点に立ったまちづくりについて意見を求めた。</p> <p>こうしたことにより、地域住民が自分の住んでいるまちの将来について、熱心に議論を展開し、あらためて、地域における諸課題、地域に埋もれた資源、財産を認識する機会を得たものと考えている。</p> <p>「みなとまちづくり」の根幹にあるのは、地域に住んでいる人たちがどう「みなと」を活用して「まち」を活性化させていくかということである。幸い、本市の内川周辺では、木造住宅が立ち並び、小さな漁船が多く係留され、人々が路地裏で暮らしているという世界に誇れる「日本らしい」港町風情が残っている。また、臨海部では、日本海側では最大級の斜張橋が建設中である。</p> <p>「みなとまちづくり」に求められる視点は、こうした「みなと」の資産を市民の視点から再評価するとともに、最大限に活用して市民の合意の下で活力ある「みなと」空間を形成し、地域の個性ある発展を着実に進めていくことではないかと考えるものである。</p>
-------------------------------------	--